

成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 平成29 年度

市町村名	東松山市			
提案事業名	日本一子育てが楽しいまちづくり事業			
事業期間	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度			
事業の必要性、目的	人口減少社会にあって、本市では人口が増えている傾向にあり、とりわけ高坂地区の開発区域では、子育て世代の流入が顕著となっている。今後も、みどり豊かな自然が残る環境の中、市の持つ特徴や資源の魅力を発信するほか、企業誘致による雇用の創出等によって、定住人口の増加を図り、より多くの子育て世代に住んでもらうためにも、乳幼児から中学卒業に至るまでの期間、幅広くかつ切れ目ない子育て支援策を推進していくことが喫緊の課題となっている。			
成果指標	(成果を検証する指標) 子育て環境が整っていると回答した市民の割合			
	(成果検証の具体的な方法) 隔年で実施している市民意識調査において、子育て環境が整っている・どちらかといえば整っていると回答した子育て中の家族がいる市民の割合			
	(上記の指標を設定した理由) 東松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の6つのプロジェクトのひとつ「子育てしやすいまちの創造プロジェクト」において、当計画と同様、平成31年度の重要業績評価指標(KPI)として位置付けている。 「日本一子育てが楽しいまち」の実現を目指しているため、総合戦略の目標値(50%)を超える60%を目標値としている。			
	(成果の目標値)			
	現状値 (28年12月現在)	36.2%	目標値 (32年12月時点)	60%
	※市民意識調査は2年に1回の実施となるため、平成32年度の調査結果を成果指標として採用しています。			
	(施設建設等の場合)			
	年間利用者数(目標)(人)		稼働率(目標)(%)	
住民への公表方法及び特記事項		市ホームページにおいて目標値を公表する。		

【成果指標と構成事業の関連性】

平成29年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① 子育て支援センター「ソーレ」改修事業	ハード 本市の特色であるウォーキングを子育て施策と連携させた「歩育」の考え方にに基づき「子ども向けウォーキングコース」の起終点としての位置付けの明確化と整備、また、子どもの「あたま」「からだ」「こころ」の発達に資する遊具の設置等に取り組むことで、乳幼児期の子育て環境を整える。	10,000
② 「子どものひろば」出張事業	ソフト 市内7地区の市民活動センターの一部を有効活用して、乳幼児から中学生までの子どもが放課後などを中心に自由に学んだり遊んだりできる「子どものひろば」を設置している。市の中心にある公共施設(市役所)に「子どものひろば」を一時的に開設し、子育て団体や近隣大学等との協働により、「子どものひろばまつり」を開催することで、「子どものひろば」の機能を知っていただき、認知度を高めるとともに、子育て団体や学生が「子どものひろば」の運営に参画するきっかけとなることも期待できる。	2,274
③ 新版子育てガイド発行事業	ソフト 妊娠期から中学生までの子育て支援に関する情報に特化した内容に整理し一目で分かりやすくするとともに、日常的に見ていただけるように家庭内の冷蔵庫やトイレ等に貼付もできる、A3版一枚の「新版子育てガイド」を作成し、幅広い情報提供を図っていく。	273
合計		12,547

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	イベント開催時等にアンケートを実施し、子どもたちや保護者の生の声を聴く機会を設け、それらを次のハード・ソフトそれぞれの事業展開に反映していく。
成果指標の達成見込み	今年度、住みよさランキング「都市データパック2017」で県内1位となり、徐々に市民に対し一つひとつの施策が定着しつつあると認識している。定住者と流入者それぞれの意識・考え方を把握し、幅広い視点で子育て支援策を立案することで、利用者のニーズに合った事業が実施できる。

(記入上の注意)

【成果指標の設定】

・住民への公表方法は具体的に記述すること

【成果指標と構成事業の関連性】

・提案事業を構成する各事業(構成事業)について次のとおり分類すること

「ハード」 施設建設等が中心の事業(ハード事業)。

「ソフト」 主に人的要素を活用した活動でハード事業以外の事業(ソフト事業)。

「間接補」 青年会議所、商工会議所・商工会、自治会、NPO等の公共的団体が実施する事業
に対して市町村が補助金を交付するもの(間接補助事業)。

・事業費は補助金を要望する単年度の事業費のみ記入すること。また、間接補助事業の場合には、
事業費の下に()書きで、市町村の負担額又は補助額を記入すること。